

ほとけの 混和会だより

令和五年九月

東光院
仏の混和会

第168号



慈愛心によって
導かれる
極楽浄土

「極楽浄土はどこにあるのか」

極楽浄土とは、安心と喜びに満たされる世界で決して死後の世界だけに存在するのでは無く、むしろこの世に於いてこそ浄土を築いて行かなければ成りません。

この世に於いて共に人々の幸を願う慈愛心を抱いた時、その心はそのまま来世に引き継がれ安心と喜びに満たされるお浄土へと導かれて行きます。

よって「極楽浄土」は行くところでは無く、己自身の清らかな心「慈愛心」によって仏様に導かれるところである。

ります。

では、どのように「慈愛心」を育んで行ったら良いのかと、言うとお、仏様は愛するなどと、説明しておられました。なんとも、ちぐはぐな話ですが、「愛」と「慈愛心」には大きな違いがあったのです。

慈愛心この言葉の意味を私は無条件の愛と解釈しておりますが、仏典には「慈悲」と記されております。

ある日、仏教の講演に参加した時、その先生は聴衆に向けて「貴方の人生にとって一番大切な物は」何ですかと尋ねておられました。

すると聴衆の一人が、かつてビートルズは「愛こそすべて」と歌っていました。又ある人は、あるテレビ局では「愛は地球を救う」と言うスローガンを掲げ報じておりました。「愛」が一番大切かと思えます。と答えておられました。

「愛」とても心地よい言葉

ですがこの「愛」と言う言葉にはとても怖い一面が隠されて居るのです。

「愛」私達は人を愛し、又は物を愛し、その愛が満たされるように一生懸命尽くします。

しかしその愛がかなわなかった時、私達の心はどう変化して行くのかと言うと、仮に人を愛した時「私がこんなにしてやったのに」などと、怒りや憎しみを抱いてしまったり、又物を愛した時、あまりにもその物を欲するがゆえに犯罪を招いてしまったりもします。

愛とは、その人やその物を愛して居るように思われますが、実は己自身だけを愛して居る場合が多く、その愛が満たされなかった時、争いや災いの元と成るとも不安定な境地でもありません。これが「愛」と言う存在なのです。見返りも感謝も求めない無条件の愛、それを仏様は「慈悲」と言い、解りやすく「慈愛心」と言っております。

この慈愛心を共に育む環境に於いて、現世も来世も安心と喜びに満たされる極楽浄土が築かれて行きます。



では慈悲の御心「慈愛心」をどのようについで行きたら良いのかと言うと、

慈愛心を育む道場として比叡山を開かれた、最澄様は「己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」と説いて下さいました。

「己を忘れる」とは己の「我」を捨てると言うことで、良い事は他に与え悪い事は己に向けて、自分本位に物事を見るので無く、人々そして自然との調和を大切に物事を正しく観てとらわれや執着心を捨てた広い心で御座います。

「他を利する」とは見返りも感謝も求めず、無条件で他の幸を願い優しさを施すことです。

「慈愛心を施す」この「因縁」によって必然的にこの世も来世も安心に満たされる浄土と成るよう導かれて行きます。と最澄様は私達に心の持ち方を説いてくださいました。大変困難な事かと思えますが無理の無いように努めて行きたいと存じます。合掌

亮観拝



※訂正前号のナンバリングに誤りがありました。お詫び申し上げます。日本仏教に登場する仏様を毎号少しずつご紹介。今回も改めてお彼岸を紹介し

● お彼岸

「彼岸」とは「迷いを克服した境地（極楽浄土）」を意味し、語源の「パーラミタ」は「悟りの世界へ辿り着く」という意味があります。



日本において年に二度、太陽が真東（この世）から昇り真西（西方極楽浄土の方角）に沈む事から、あの世との距離が最も近くなり、想いが通じやすくなる日としてこの期間を「ご先祖様への供養と、自分自身を見つめ直す（仏道修行）期間」として暦に設けられております。つまり仏道修行週間です。

ではどのような修行を行わなければならないのかという点、誰でも出来る修行の基礎ともされる次の六つを実践出来る様、心がけましょう。と決められております。① 布施・見返りを求めず優

しさを分け与える。欲かし離れる努力。② 戒律を守る。慈悲の心。③ 忍辱・苦難に耐え忍ぶ。己の怒りをコントロール。④ 精進・誠心誠意尽く努力を。⑤ 禅定・常に平常心を保つ。⑥ 智慧・以上を踏まえ「智慧」とは行動の教えを指し現代的な情報を取り捨てる様考え代わればなり。⑦ この六つの修行を「六波羅蜜」と言います。言葉で実践するのは難しいですが、実践するのには、日々の実践でも六波羅蜜の修行を、実践出来る様心がけて見ましょう。⑧ 極楽浄土から距離が近いお彼岸の期間中、先祖様や仏様がよく見かと思えます。



仏教 × SDGs. 大変な猛暑 私達は如何に生きる。 Includes a grid of 17 SDG icons and a photo of people working in a field.

蜜蜂の大量死. 今年は大変な猛暑と成りました。 Includes a photo of bees on a flower.

た室内で過ごす事が出来ませんが自然の生き物は涼を求めず自然の生きたら良いのか、せめて食料の争奪戦に成らない事を切に願います。

自然との共生

自然と私達、そして人と人共に生きて、共に生かされ共に生きる。



八月二十七日 東光院の名物 ほとけのお蕎麦の種まきを致しました。 炎天下の中、檀信徒の皆さん

八名のご協力を頂き、午前中で終える事が出来ました。 ほとけのお蕎麦とは、仏様のような優しい心、共に他の幸を願う「慈愛心」、この仏心を抱いた人がそばに居てくれるだけで大きな安心が得られます。 そのような環境が築けられるように願いを込めて行っております。



お陰様で本堂の屋根修復工事が七月二十日無事終了致しました事、愛にご報告申し上げます。